

ジャクソンのストーリー

ジャクソンは末日聖徒イエス・キリスト教会の忠実な会員の家族の中で育ちました。愛情深い両親がおり、特に姉のセレーナとは仲の良い関係を築いています。

ジャクソンは福音を愛しており、イエス・キリストと回復についての証を持っています。また、明るく社交的な性格で知られています。ところが、最近、その明るさが悲しみに取って代わり、自分の殻に閉じこもることが多くなってきました。ジャクソンには秘密があり、どうすればよいか分からないのです。

思い出せるかぎりずっと、女性よりも男性にひかれる気持ちがありました。何年もの間、こうした感情を無視し、そのような感情はないふりをしようとしてきました。家庭内でこの話題が出たことは一度もなかったため、話題にしてはいけない話だと感じていました。時々、友人たちがゲイの人々について軽蔑するような発言をすることもありました。教会の教師や指導者から教えられたことで覚えているのは、同性愛は重大な罪であるということだけでした。

伝道に出る前、ジャクソンは男性にひかれる気持ちを取り除いてくださるよう、神に繰り返し懇願しました。伝道に出れば、自分の気持ちは変わるだろうと確信していました。ところが、ジャクソンが伝道を終えてからも、男性にひかれる気持ちは消えません。ジャクソンはだれかと話したいと切実に望んでいますが、恐れから口を閉ざしています。

セレーナは、弟が家族に心を閉ざしてしまっていることに気づきました。苦痛を感じているのが見て取れます。ジャクソンのために祈り、弟を助ける方法を知るために祈ってきました。

今朝、セレーナはジャクソンに、一緒に散歩に行ってもいいかと尋ねました。ジャクソンはしぶしぶ同意しました。歩きながら、二人は日常のことについて話しました。セレーナは、ジャクソンを笑顔にしました。ついに、セレーナは次のように言いました。「ジャクソン、何か問題があるのね。目を見れば分かるわ。話してちょうだい。あなたのことがとても心配なの。」

ジャクソンは長い間立ち尽くしていました。涙が頬を伝い始めました。ついに、心の奥底から感情があふれ出て、声を震わせながら言いました。「セレーナ、ぼくはゲイなんだ。覚えているかぎりずっとそうだった。どうすればいいか分からないんだ。母さんや父さんが知ったら何を言われるのか怖いよ。ほかの家族もぼくを恥に思うだろうか。ぼくがゲイだと知ったら、友達にはぼくと一緒に過ごしたいと思うだろうか。ビショップに伝えたら、会員資格はどうなるんだろう。幸せになって家族を持てるのはどうてい思えないんだ。神から見捨てられたように感じるよ。」

ジャクソンは首をうなだれて、地面をじっと見つめました。長い沈黙の後、静かにこう言いました。「セレーナ、がっかりさせてしまったら、ごめんね。だれにも言わないで。ぼくは途方に暮れ、混乱している。」

話し合いのための質問

1. ジャクソンの経験について、どのような感想を持ちましたか。家族や親しい友人、教会の指導者に、同性にひかれる気持ちについて話すのが難しいのはなぜでしょうか。
2. 自分がセレーナだったら、どのように感じるでしょうか。セレーナは理解と思いやりをもって対応するために何ができるでしょうか。
3. 同性にひかれる気持ちに関する主の教えを正しく理解することは、セレーナとジャクソンの両方にどのような助けとなるでしょうか。これらの教えを受け入れるのが難しいことがあるのはなぜでしょうか。
4. ジャクソンとセレーナは、どのようにしたら同性にひかれる気持ちを永遠の観点から見ることができるようか。
5. ジャクソンはさらなる導きや励まし、助けを受けるために、どこに助けを求めることができるでしょうか。